実施	平成28年度

事務事業事後評価表

≪基本情報≫

事務事業の名称【1】	公園整備事業	所管課【2】	建設管理課
		評価者(担当者)	山西幸誠
総合計画での位置付け【3】	基本目標(章)	①便利で快適なまちづくり	重点施策【4】
	主要施策(節)	(4)公園・緑地等の整備	☐該当
	施策区分	(1)公園・緑地の整備	
	(市民意識調査結果)	☐【A】重点改善領域 ☑【B】重点維持領域 ☐【C】観察領域 ☐【D】維持領域	
実施の根拠(複数回答可)【5】	☐市長公約 ☐新市建設計画【 年度予定 : 金額 千円】		
	☑法令、県・市条例等【 都市公園法 】		
	☑その他の計画【 都市公園安全・安心対策緊急総合支援事業計画 】 ☐該当なし		
事業区分【6】	☐ソフト事業 ☐義務的事業 ☑建設・整備事業 ☐施設の維持管理事業		
	☐内部管理事務 ☐計画等の策定事務		
会計区分【7】	☑一般会計 ☐特別・企業会計【 】	款 8 項 5 目 5 細目 2	

≪事務事業の目的≫

事務事業の実施背景(どのような問題又はニーズがあるのか)【8】	公園緑地は自然とのふれあいやレクレーションの場として、幅広い年齢層の健康づくりや交流活動に役立つとともに大気汚染防止、気温上昇の緩和などの環境面や災害時の避難地、延焼防止など都市防災性の向上に貢献するなど、多くの機能を備えた施設であるため都市生活に必要とされている。
対象(誰、何に対して)【9】	都市公園利用者
意図(どのような状態にしたいのか)【10】	公園施設の具体的な改善を行うことで、維持管理のライフサイクルコスト削減が図られる。また、子供や高齢者など誰もが安全で安心した公園の利用促進に繋げる。

≪事務事業の概要≫

事業期間【11】	☐単年度のみ【 年度】 ☐単年度繰返し【 年度から】 ☑期間限定複数年度【 H21 年度～ H30 年度まで】
事業主体【12】	☐国 ☐県 ☑市 ☐民間 ☐その他【 】
実施方法【13】	☑直営 ☐全部委託 ☐一部委託 ☐補助金等交付 ☐その他【 】
事務事業の具体的内容【14】	蛇ヶ谷公園、桃田運動公園、岱明中央公園、古閑近隣公園、横枕児童公園、北前原区公園、おおみなと児童公園、立山健康広場、梅林児童公園、雲雀ヶ丘第3公園、裏川水際緑地、滑石河川緑地、浜田児童公園、ひらしま児童公園、はまいで児童公園、亀甲児童公園、本堂山緑地等の都市公園のバリアフリー化及び長寿命化計画に照らした改築更新。
⇒ 事務事業を構成する細事業【15】	① 公園再整備事業
	②
	③
	④
	⑤

≪事務事業実施に係るコスト≫

				H25年度決算	H26年度決算	H27年度決算	H28年度予算	全体計画
投入コスト	事業費(千円)	国庫支出金	50 %	38,200	19,854	11,400	20,000	135,500
		県支出金	%					
		起債	95 %	36,290	18,800	15,900	19,900	132,390
		受益者負担						
		その他						
		一般財源		1,910	1,055	888	1,100	7,554
		【16】小計		76,400	39,709	28,188	41,000	275,444
		[再掲]臨時・非常勤職員人件費(千円)		0	1,490	0	0	
	職員の人件費	職員人工数		0.50	0.30	0.60	0.60	
		職員の年間平均給与額(千円)		5,424	5,761	5,761	5,761	
		【17】小計		2,712	1,728	3,457	3,457	
合計				79,112	41,437	31,645	44,457	

≪事務事業の手段と活動指標≫【18】

事務事業を構成する細事業		手段（細事業の具体的内容）	活動指標	単位	H25実績	H26実績	H27実績	H28計画
①	公園再整備事業	公園の園路・遊具の改築更新及びバリアフリー化を行う。	整備箇所数	箇所	—	10	3	4
②								
③								
④								
⑤								

≪事務事業の成果≫【19】

成果指標（意図の数値化）		計算方法又は説明	単位	H25目標	H26目標	H27目標	H28目標
				H25実績	H26実績	H27実績	
1	計画整備率（1期）	整備済箇所数/整備計画箇所数（16箇所）×100	%	100			
				100			
2	計画整備率（2期）	整備済箇所数/整備計画箇所数（30箇所）×100	%		25	37	57
					30	43	

≪事務事業の評価≫

評価項目		評価の視点	評価	評価の説明
妥当性〈判定〉	実施主体の妥当性【20】	市が実施すべき事業か。また、民間やNPO等他の団体では実施できない事業か。	□ 問題あり □ 問題なし	
	目的の妥当性【21】	税金を使って達成する目的か。また、市民ニーズの低下により役割が薄れていないか。	□ 問題あり □ 問題なし	
	廃止・休止の影響【22】	事業を止めた場合、受益者に不利益が生じる等の影響があるか。	□ 影響あり □ 影響なし	
有効性〈判定〉A	目標の達成度【23】	成果指標の目標値は達成できたか。	☑ 達成 □ 未達成	
	成果向上の余地【24】	成果がもっと上がる余地はないか。	□ 余地あり ☑ 余地なし	
	上位施策への貢献度【25】	上位施策の目的達成に貢献しているか。	☑ 十分 □ 不十分	
効率性〈判定〉A	コスト低減の余地【26】	コストの低減について、これ以上検討の余地はないか。	□ 余地あり ☑ 余地なし	
	民間の活用の余地【27】	民間委託など民間活力の活用について、これ以上検討の余地はないか。	□ 余地あり ☑ 余地なし	
	執行方法改善の余地【28】	事務事業の執行上、簡素化又は改善できるプロセスはないか。	□ 余地あり ☑ 余地なし	
	事業統合の余地【29】	類似する他の事務事業との統合について、これ以上検討の余地はないか。	□ 余地あり ☑ 余地なし	
公平性	受益者負担の余地【30】	受益者負担について、これ以上検討の余地はないか。また、対象、負担額等は適切か。	□ 余地あり □ 余地なし	

≪今後の方向性と改善≫

今後の方向性【31】	□ 拡充して継続　☑ 現状のまま継続　□ 縮小を検討　□ 休止・廃止を検討 □ 細事業の効率化【 □ 改善・見直し　□ 民間活用　□ 他事業と統合　□ 廃止 】
判断理由及び見直し・改善の具体的内容	都市公園内にある遊具や施設の老朽化対策として、計画どおりに改築・更新を行うことで、維持管理のライフサイクルコストの削減や安全・安心の公園利用促進が図れるため、現状のまま継続する。
昨年からの見直し・改善状況【32】	特になし

■評価責任者記入欄■

		評価責任者
評価責任者（課長）の所見【33】	都市公園のバリアフリー化及び改築更新を行い、子供や高齢者など誰もが安全で安心して利用できるように現状のまま継続する。	前田　慎一郎